

# 一枚起請文

もろこし我朝にもろもろの智者  
達の沙汰し申さるる観念の念に  
もあらずまた学問をして念のこころ  
を悟りて申す念佛にもあらずただ  
往生極樂のためには南無阿弥陀佛  
と申してうたががなく往生するぞと思  
い取りて申す外には別の子細候わ  
ずただし三心四修と申すことの候  
うは皆決定して南無阿弥陀佛にて  
往生するぞと思ううちにもり候  
うなりこの外に興ふかき事を存せ  
ば二尊のあわれみにはずれ本願  
にもれ候うべし念佛を信ぜん人は

たとい一代の法をよくよく学すとも  
一文不知の愚心鈍の身になして尼入道  
の無智のともがらに同じうして智者  
のふるまいをせずしてただ一向に念佛  
すべし

証のために両手印をもつてす

浄土宗の安心起行この一紙に至極せり  
源空が所存この外に全く別義を存せ  
ず滅後の邪義をふせがんがために  
所存をしるし畢

建曆二年正月廿三日 大師在御判

為

願主